

ツアー隊一行がまず向かったのは、埼玉県志木市にある「ガレージイワサ」。

ホンダSシリーズ、そしてロータス・エランなど英国製のライトウェイトスポーツを得意とするスペシャルショップです。代表の岩佐三世志さんにお話を伺いました。

担当編集シオミ(以下担当) こちらは、とくにホンダSシリーズのオーナーの間で評判の店と伺っていますが、いづれからやってらっしゃるんですか。

岩佐三世志(敬称略、以下岩佐) ここで始めたのは、かれこれ20年以上前になりますね。昔、米山二郎(注1)っていうレーサーがいたでしょ? 彼のお父さんが東京の巣鴨で修理工場をやっていた、私はその出身なんですよ。

徳大寺有恒(以下徳大寺) ほう、懐かしい名前だな。

岩佐 で、彼のオヤジさんが工場を畳むというので、何かしなきゃと思っていたら、たまたまこの場所が見つかった。

松本英雄(以下松本) ホンダSを主体にしたのは、やはりお好きだったからですか。

岩佐 というか、最初はSのお客さんしかいなかったんですよ。私もSに乗っていたから、ホンダツインカムクラブ(Sのワンメイイクラブ)のメンバーに知り合いが多かったし。別にSだけにこだわっていたわけではないんですが。

松本 その後はロータス・エランなど英国製ライトウェイトスポーツも扱うようになったわけですね。

岩佐 ええ。Sに限らず小さなスポーツカーが好きでしたから。エランなんかは、若い頃の憧れのクルマでもあったし。

恒例
徳大寺巨匠といく
エンズー・ヒストリックカー・ツアー

ロータスからの詫び状

エラン、エス、チンクエチェント編

大好評です、このツアー。

今月は埼玉県内の老舗エンズー・ショップ2店を訪問しました。

テーマは、言うなれば“軽量”。

なかでも、エランとエスに対する巨匠の懐かしがりようには参加者一同、オドロキ。

この日英ライトウェイトスポーツにまつわる巨匠のエピソードは枚挙にいとまがありません。

皆さんも巨匠の隣で見学しているつもりになって、お読みください

語る人=徳大寺有恒 聞く人=松本英雄 描く人=綿谷 寛 まとめる人=沼田 亨

んですか。

岩佐 いや、とても。米山二郎が船橋サーキットから借りてきたのを眺めたくらいで。今でもはつきり覚えてますけどね。

松本 船橋でエランといえば、巨匠の出番でしょう。今も伝説として語り継がれている1965年の船橋CCCレース(注2)で、故・浮谷東次郎を乗せたレーシングメ



65年船橋サキントにて

若き日の
杉江博愛...
いや、徳大寺巨匠。
若々しいぞ!



ブリティッシュグリーンボディに黄色のストライプ。ホイールもオレンジに塗って、これぞ正にロータスエラン!

式場壮吉さんといえは、
田代世代以降には欧陽菲菲の「主人」といっ
イネジが強いが、日本のモータースポーツ草創期の
トシノクサのレーサーであった

松本 それは26Rではなくて、ス
タンダードなエランですか。
徳大寺 そつ。でも、軽く流して
も2分50秒くらいで走っちゃう。
これはその頃としては驚異的なタ
イムなんだよ。
沼田 第2回日本グランプリで優
勝した式場さんのボルシエ904
カレラGTSの予選タイムが、た
しかそれぐらいでしたよね。
徳大寺 うん。絶対的なタイムは
ともかく、感覚的には904より
速く感じたな。
松本 ミドシップのレーシングス
ポーツである904よりエランで
すか?
徳大寺 なたって小さくて軽い

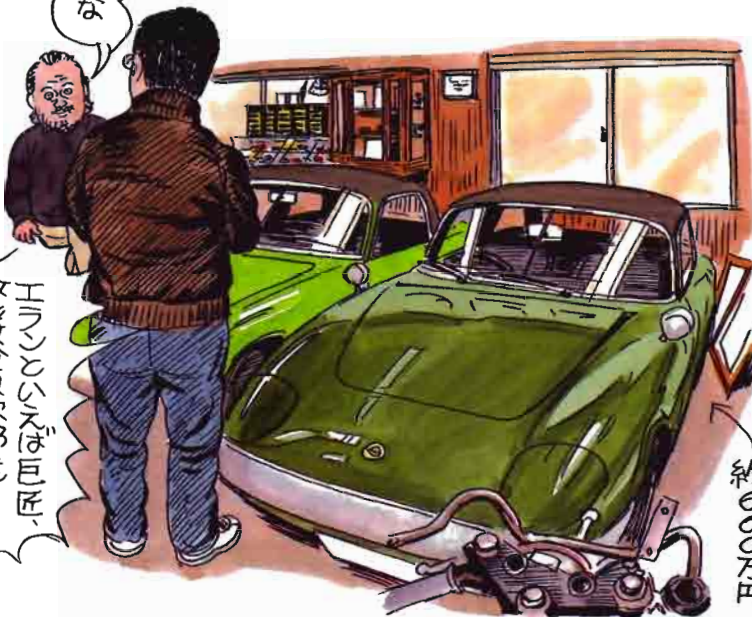
たのと、もうレースぐらいしか
走らせてない。あとはもっぱら我々
が乗り回してた。
松本 街乗りでも問題なかったん
ですか。
徳大寺 ドライブシャフトのラバ
ーカップリングを除いては。あれ
が初期のエランの弱点で、すぐ割
れちゃうんだ。割れるとボディ全
体がガタガタいうから、すぐにわ
かるんだけど。代理店だった東急
商事まで何度もパーツを買いに行
った覚えがあるよ。

松本 それで後のモデ
ルではユニバーサルジ
ョイントに変わったん
ですね。
徳大寺 「設計ミスで
迷惑をかけて申し訳な
い」というロータスか
らの詫言を、どこか
に取ってあったと思うな。
担当 そりゃすごいですね。しか
し、エランってカッコイイだけじ
ゃなくて、ホントに速いクルマだ
ったんだなあ。で、エランの現在

フルレストアのロータスエランは
約600万円

「ほほー
懐かしいな」

からな。600kgくらいだろう?
その走りっぷりに感動して、さ
つそく式場くんがロータスにオー
ダーしたんだ。
松本 普通のエランならともかく、
26Rだと納車までかなり時間が
かかったんじゃないですか。
徳大寺 それが意外にも
早くきたんだな。式場く
んがピーター・ウオー(注
4)と親しかったからだ
と思うけど。
沼田 それだけ速かった割には、
あの26R、あまりレースに出てな
いように思うんですが。
徳大寺 そうだな。CCCのほか
はたしか(生沢)徹を鈴鹿で乗せ



エランといえは巨匠、
故浮谷東次郎を
乗せたレーシングマイトの
レーシングエラン。

「エランを
通勤に使えるのか?」って
おしやるお客さんには
丁重にお断りしてます
(苦笑)



「カレシイワサ」
代表 岩佐三世志さん

隣は
工場
つい長居して
しまいそうな
居心地のいい
店舗だ

の相場はどれくらいなのでしょう
か。
岩佐 このS2(シリーズ2)は
シャシー、ボディのレストアが終
わって、あとはエンジンのリビル
ド待ちなんですけど、すべて仕上
げて600万円というところす。
担当 それだけ手を入れたクルマ
だと、不安なく楽しめますか。
岩佐 それは難しい質問ですね。
乗り手の要求するレベルによりま
すから。たまに「通勤にも使えま
すか?」というお客さんがいらっ
しゃるんですけど、ウチではそう
いう方には丁重にお断りします。
乗りっ放しにはできないし、楽し

Garage IWASA
ガレージ イワサ
埼玉県志木市中条3-8-7
URL: <http://www.garage-iwasa.com/>
電話: 048-472-0602

むにはある程度腕も要るし。通勤にも使いたくないなら、MG Bあたりにおいていたほうがいいと、はっきり申し上げます。

徳大寺 おっしゃるとおりだな。担当 (S600を見ながら) ところで僕、S7に乗ったことがないんですよ。ちょっと座ってみていいですか。

岩佐 どうぞどうぞ。担当 これ、ボディサイズ(全長×全幅×全高)3.3×1.43×1.2m)も排気量も今の軽規格(同3.4×1.48×2.0m)に収まっちゃうんですね。でもドアを開閉したときの感じ、内装のつくり、そしてペダルやシフトのタッチなど、見るもの触れるものすべてがすごくしつかりしてるのに驚きました。

松本 なにしろホンダにとつて初めての四輪車だから、小さいとはいえすべて専用設計だし、妥協がないんだよ。沼田 逆を言えば、手の抜き方を知らなかったんだらうね。おかげですごく重くなっちゃったけど(車両重量は720kg!)。ガツガツしたフレームに、それだけでモノコックになりそうぐらい頑丈なボディが載ってる。

岩佐 でも今になってみると、それだけ頑丈だったからこそSは生き残れたんですよ。フレームがしつかりしてるから、足まわりのブッシュ類とかを替えてやれば蘇るんですよ。徳大寺 なるほど。しかしその車体に総アルミ製のDOHC4連キヤブ、組み立てクランクにニードルローラーベアリングという凝りに凝ったエンジンだらう? これじゃホンダはさぞかし儲からなかったことだらうよ。

沼田 あそこに貼ってあるポスターに、S600の新車価格は50万9000円とありますね。空冷ブラットツインを積んだ大衆車のパブリカが40万円前後だったことを考えると、破格のバーゲンプライスでしょう。徳大寺 俺、新車でエスロク(S600)のクーペを買ったんだよな。本来クーペはロードスターより高かったんだけど、売れなかつたからすごく値引きしてたんだよ。ホントはロードスターが欲しかったけど、金がなかったからクーペしか買えなかった(笑)。

岩佐 一般的にはそうですね。でも、極上もの同士だとむしろ600のほうが高くなりますよ。数が少ないですから。沼田 ということは、より少ない500だとさらに高くなるわけですね。岩佐 ええ。担当 大きさは手ごろだけど、予算的にはちょっと厳しいなあ。徳大寺 とはいえ、こうしてSの専門店があるだけでもうれしいじゃないか。

松本 そうですね。なんたってSは日本が世界に誇れる数少ないスポーツカーなんです。徳大寺 おかげさまで今日は楽しませていただきました。どうもありがとうございました。岩佐 こちらこそありがとうございます。また遊びに来てください。

徳大寺 確かに似てるな。担当 (レストア中の薄いブルーに塗られたクーペを見ながら) とってもオシャレですよ。岩佐 そうおっしゃいますけど、クーペが認められるようになったのはここ10年くらいのことなんです。それ以前はロードスター一辺倒で、どんなにいいクーペが出てきても見向きもされなかったんですよ。松本 ということは、デビューから苦節30年を経て、ようやく日の目を見たことになるんでしょうか。担当 なんだか演歌歌手みたいですね(笑)。さて、そのSの相場はどれくらいなんですか。

岩佐 200万円前後から、極上ものだと400万円くらいするものもありますね。徳大寺 やはり600より800のほうが高いんですか。

沼田 あそこには貼ってあるポスターに、S600の新車価格は50万9000円とありますね。空冷ブラットツインを積んだ大衆車のパブリカが40万円前後だったことを考えると、破格のバーゲンプライスでしょう。徳大寺 俺、新車でエスロク(S600)のクーペを買ったんだよな。本来クーペはロードスターより高かったんだけど、売れなかつたからすごく値引きしてたんだよ。ホントはロードスターが欲しかったけど、金がなかったからクーペしか買えなかった(笑)。

注1) 米山二郎
60年代から80年代まで長い間にわたって活躍したレーシングドライバー。ツーリングカーからフォーミュラまでなんでも乗りこなし、ルマンにも出場、クラス入賞した。
注2) CCCレース
この年、中止となった日本グランプリに代わるビッグイベントとして船橋サーキットで開催された「全日本自動車クラブ選手権レース大会」。GT1クラスにおける浮谷東次郎の雨中の大逆転劇が伝説化している。
注3) レーシングメイト
60年代に巨匠が経営していた総合カー用品メーカー。
注4) ピーター・ウォー
60年代当時ロータスのセールスエンジニアだったが、ドライバーとして第1回日本グランプリにロータス23で出場して優勝。後にロータスF1チームの監督も務めた。

